**平成25年度高岡市一般会計・特別会計歳入歳出決算**

**及び基金運用状況の審査意見**

第１　審 査 の 対 象

**１　各会計の歳入歳出決算**

平成25年度　高岡市一般会計

平成25年度　高岡市国民健康保険事業会計

平成25年度　高岡市下水道事業会計

平成25年度　高岡市荻布奨学金事業会計

平成25年度　高岡市駐車場事業会計

平成25年度　高岡市工業団地造成事業会計

平成25年度　高岡市農業集落排水事業会計

平成25年度　高岡市介護保険事業会計

平成25年度　高岡市後期高齢者医療事業会計

上記各会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書

**２　各基金の運用状況**

平成25年度　高岡市水洗便所改造資金貸付基金

平成25年度　高岡市高額療養費貸付基金

平成25年度　高岡市美術館美術品取得基金

平成25年度　高岡市土地開発基金

　　　　　上記各基金の運用状況に関する調書

第２　審 査 の 期 間

　　　　平成26年７月24日から平成26年8月8日まで

第３　審 査 の 方 法

審査にあたっては、各会計の歳入歳出決算書及び附属書類が関係法令に準拠して作成され、計数が正確であり、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係部局から決算についての説明を

聴取するなどの方法により実施した。

第４　審 査 の 結 果

審査に付された各会計の歳入歳出決算書及び附属書類並びに基金の運用状況に

関する調書は、いずれも関係法令の規定に準拠して作成され、その計数は関係諸帳簿と

符合し正確であり、また予算執行及び会計処理は適正であると認められた。

各会計の決算の審査概要及び基金の運用状況の審査概要並びにこれらの審査意見は、次のとおりである。

なお、各会計別の予算執行状況及び財政状態並びに基金の運用状況に関する資料は、決算の概要等のとおりである。

第５　審 査 の 意 見

平成25年度の一般会計と特別会計を合わせた総計決算額は、歳入が128,486,449千円、歳出が126,780,654千円で、歳入歳出差引額(形式収支)は1,705,795千円となり、前年度に比べ歳入で10,658,156千円(9.0％)、歳出で10,373,729千円(8.9％)と

それぞれ前年度の決算額を上回っている。

一般会計は、歳入が83,362,751千円(前年度比15.1％)、歳出が82,217,170千円 (前年度比14.8％)で、歳入歳出差引額は1,145,581千円となり、これから翌年度へ繰り越すべき財源588,853千円を差し引いた実質収支は556,728千円となっている。

この実質収支額から前年度実質収支額604,101千円を差し引いた当年度の単年度収支に財政調整基金積立金1,090千円を加え、財政調整基金の取り崩し額200,000千円を差し引いた実質単年度収支は246,283千円の赤字となっている。

歳入全体の30.3％を占める市税は25,281,733千円で、前年度に比べ92,459千円(0.4％)増加している。これは主に、法人市民税が法人税率の引き下げの影響などにより前年度に比べ224,596千円(△10.0％)減少したものの、固定資産税で

136,882千円(1.1％)、軽自動車税で8,019千円(2.3％)、市たばこ税で142,412千円(11.2％)とそれぞれ増加したことによるものである。

市税収納率は93.8％で前年度に比べ0.8ポイント上昇し、収入未済額については156,263千円(△9.8％)減少している。これは市税の収納率向上を図るため、引き続き税関係課５課合同の特命担当チームによる収納確保対策などに取り組まれた成果と思われる。今後とも自主財源を確保していくため、収納体制の整備・充実はもと

より、滞納者に対する戸別訪問の継続的な実施や納税相談の推進に努められ、収入未済額のさらなる縮減を望むものである。

歳入全体の16.3％を占める市債の発行額は、前年度に比べ2,260,200千円(19.9％)の増加となっている。これは、総務債が減少したものの、土木債、教育債、商工債などが増加したことによるものである。このことから、本年度末の一般会計の市債現在高は103,133,522千円となり、前年度末に比べ5,864,337千円(6.0％)増加している。

歳入を財源別構成でみると、市税等の自主財源は41.6％で前年度に比べ

198,888千円(0.6％)増加している。一方、地方交付税等の依存財源は58.4％で

前年度に比べ10,746,178千円(28.3％)増加し、依存財源の比率が6.0ポイント

上昇している。

次に、歳出を性質別にみると、義務的経費は前年度に比べ683,606千円（△2.2％）

減少し、歳出全体に占める割合は37.3％で前年度に比べ6.5ポイント下降している。

これは主に、扶助費が増加したものの、職員数の減少や職員構成の新陳代謝

により平均給料額が低下したことに加え、平成25年7月からの特例措置による給与引き下げなどにより、人件費が663,077千円(△6.1％)減少したことによるもので

ある。

また、投資的経費は前年度に比べ8,794,710千円(61.0％)増加し、歳出全体に

占める割合は28.3％で前年度に比べ8.2ポイント上昇している。これは主に、補助事業で、高岡西部総合公園整備事業費(前年度比1,600,675千円）、北陸新幹線対策事業費(前年度比1,408,876千円）、高岡駅周辺地区整備事業費(前年度比892,295千円）等の増加によるものである。

普通会計における財政運営の状況を示す指数・比率については、財政力の総合的

指標とされる財政力指数で0.737（前年度比0.004ポイント）とわずかながら

上昇しているが、歳入構造の余裕をみる経常一般財源等比率では95.1％（前年度比

△1.0ポイント)となっており、財源にゆとりがなくなってきている状況にある。

財政構造の弾力性を判断する経常収支比率は87.3％（前年度比△1.9ポイント）、

実質公債費比率は15.5％(前年度比△0.5ポイント)となっており、財政構造の

硬直化がやや緩和されたことがうかがえる。

しかしながら、今後とも市債の発行にあたっては、将来にわたる償還額や残高を意識しながら抑制に努めるとともに、交付税措置のある起債を有効に活用し、実質公債費比率18％未満の堅持に努められたい。

次に、特別会計の決算状況をみると、全会計の形式収支は560,214千円となり、

これから下水道事業会計の翌年度へ繰り越すべき財源16,482千円を差し引いた

実質収支は543,732千円となっている。各特別会計の実質収支は、国民健康保険

事業会計、下水道事業会計、介護保険事業会計及び後期高齢者医療事業会計の

４会計で黒字となっており、それぞれ全額翌年度へ繰り越されている。

また、荻布奨学金事業会計、駐車場事業会計及び工業団地造成事業会計の３会計は収支同額となっている。

なお、下水道事業会計及び農業集落排水事業会計については、平成26年４月１日から地方公営企業法を適用する下水道事業会計に移行することに伴い、打ち切り

決算を行うとともに、その歳入歳出差引額は下水道事業会計へ引き継がれている。

基金の運用状況をみると、水洗便所改造資金貸付基金他３基金は、設置

目的に従って運用されており、その執行内容は適正であると認められた。

平成25年度は、北陸新幹線開業に向けて必要な都市基盤整備の進捗度がピークに達し、まちの魅力や「高岡」の認知度、求心力を高め、新幹線開業を着実に本市の発展に繋げるとともに、開業以降の未来都市高岡の姿を示すための施策に取り

組まれた年であった。

国の経済対策に伴う交付金が増加するなど、歳入総額は前年度を大きく上回ってはいるが、高齢化などによる扶助費の増加や新幹線関連の都市基盤整備等を重点的に取り組んだことによる投資的経費が膨らんでおり、本市の財政環境は依然として厳しい状況にあると言える。

このようなことから、今後の市政運営にあたっては、「高岡市行財政改革推進

方針」に基づき、引き続き熱意と努力をもって行財政改革に取り組まれるよう望むものである。特に、施策・事業の実施では現下の厳しい財政状況を踏まえ、その

優先度、緊急度、事業効果などについて十分に検討を重ね、持続可能なスピード感のある行財政運営を推進されたい。